

令和3年度「ちばっ子の学び変革」推進事業（「学力・学習状況」検証事業）研究
状況報告書

1 学校紹介

本校は銚子電鉄本銚子駅に道路を挟んで隣接している。そのため、電車で通学する児童が約10%の割合で存在する。校舎は台地にあり、3階からは市内を広く見渡すことができる。全国や県の学力検査において、国や県の平均との差は大きく、学力向上は課題となっている。学習活動を展開する各校舎は、明るく清潔で学習環境として最適である。敷地内にはグラウンド、中庭、前庭など児童が活動できる場所があり、休み時間は多くの児童が外遊びをしている。

2 研究主題

豊かな表現力を身に付ける国語科指導

3 研究の概要

(1) 児童生徒の実態と課題

①児童の実態と課題

本校児童は活動性に富み、好奇心が旺盛である。授業や家庭学習では、指示された課題には一生懸命取り組めるが、進んで課題を見つけたり、計画的に学習をしたりすること等に課題がある。また、基本的な生活習慣の乱れや学習用具の不揃い等による学習意欲の低下は、学習に取り組むうえで大きな課題となっている。

また、どの学級にも学習の取組に支援を要する児童が複数在籍しており、授業におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導や特別支援教育の推進も課題である。

②「令和3年度全国学力・学習状況調査（国語）」の分析

領域別の正答率では国や県と同様に「読むこと」「書くこと」が低い。特に、「読むこと」においては国や県と比べ15%程度低い。問題形式の正答率でも、国や県と同様に「記述式」が低い傾向にある。

全職員で正答率の低い問題の誤答分析の結果、以下の設問に特に課題が見られた。

- ・目的に応じて文章と図表等を結び付けて、必要な情報を見つけること。
- ・目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書くこと。

目的に応じて文章と図表等の情報を関係づけて検討したり、複数の情報を結び付けて考えを形成したりすることに課題があることが共通している。また、自分の考えを表現するにあたり、必要条件を満たしていないことも挙げられた。



全職員で行った誤答分析

<解答類型別正答率にみられる特徴とつまずきの分析>

文章と図表を結び付けて読む。

4. ヒントになったことについては書いているが、面アスナーのくつつく仕組みについては書いていない。

5. 面アスナーのくつつく仕組みについては書いているが、ヒントになったことについては書いていない。

6. ヒントになったこと、面アスナーのくつつく仕組みのどちらも書いている。

<学習指導の改善案>

- 文章に付属して示されている図や表が、文章のどの部分と結びつかをはっきりさせながら読む。
- 文章中の言葉に線を引く。図や表と関係のある文章を
- 図や表からわかること

様々な教科でも

誤答分析シートを活用

(2) 学力向上のための取組

【「書くこと」に重点を置いた授業改善】

○第2学年 「アレクサンダとぜんまいねずみ」の続き話を書こう

言語活動：物語の世界を想像したり、登場人物の場面ごとの様子を考えたりしながら、順序に気をつけて読み、続き話を書いて交流する。

指導の工夫：①学習のゴールとなるモデル「オリジナルブック（続き話含）」の作成

- ・学習の流れとゴールを想定し、モデルの作成と児童への提示をする。
- ・作成までの道筋（単元計画）をすごろく風に示す。

②「続き話メモ」(ワークシート)の工夫

- ・物語の内容を正確に理解できるように「誰が」「どこで」「どうした」を項目ごとにまとめられるようにする。
- ・登場人物の関係性や気持ちの移り変わりに着目できるように吹き出しを用いる。



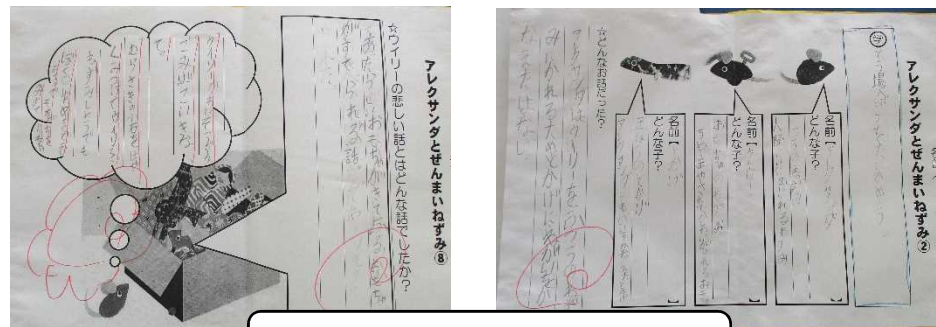
①教師自作のモデル



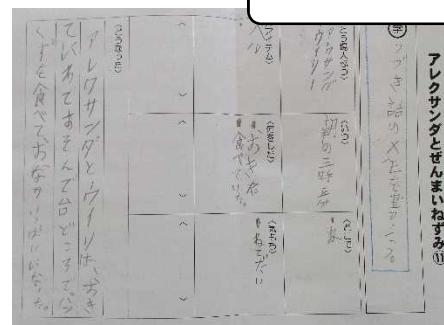
①単元計画

児童の様子：・単元計画をすごろく風に作成し提示したことで、「今日はここの学習だ。」「あと少しで続き話ができる。」と児童は見通しをもって学習を進めることができた。

・続き話を書きたいという思いから、何度も教材文を読み返す姿が見られた。



②続き話メモ



完成した「オリジナルブック」

○第5学年 みすゞを探し求めた筆者について、考えをまとめよう

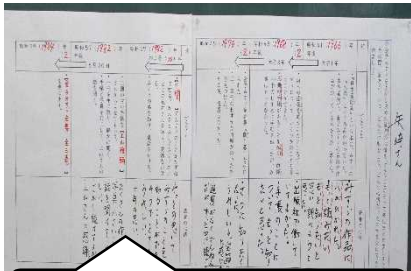
言語活動：読む視点を明確にしたうえで、ノンフィクション作品を読み、事実と感想、意見を区別して紹介シートを作成し交流する。

指導の工夫：①教材文「みすゞさがしの旅」の内容把握の工夫

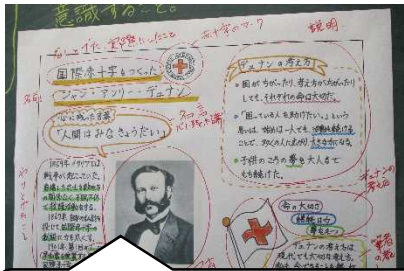
- ・接続詞に着目し、時系列でまとめる。
- ・事実と意見を区別しながら読むために教材文に線を引く。

②学習のゴールとなるモデル「紹介シート」の作成

- ・学習の流れとゴールを想定し、モデルの作成と児童への提示をする。
- ・学校図書館や市内の図書館と連携し、いつでも並行読書ができる環境をつくる。



①教材文を時系列でまとめる



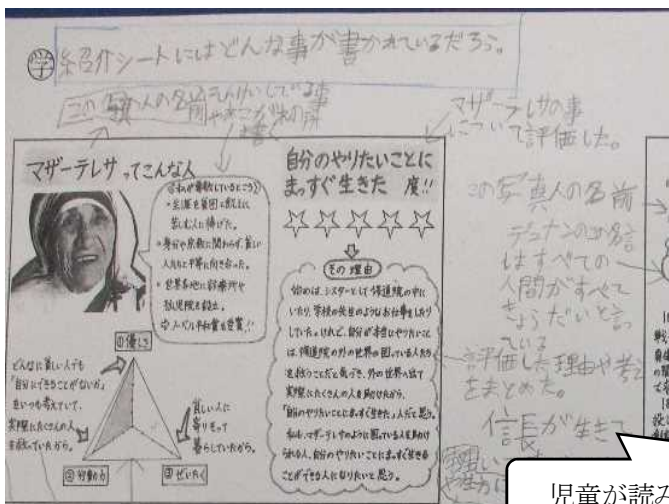
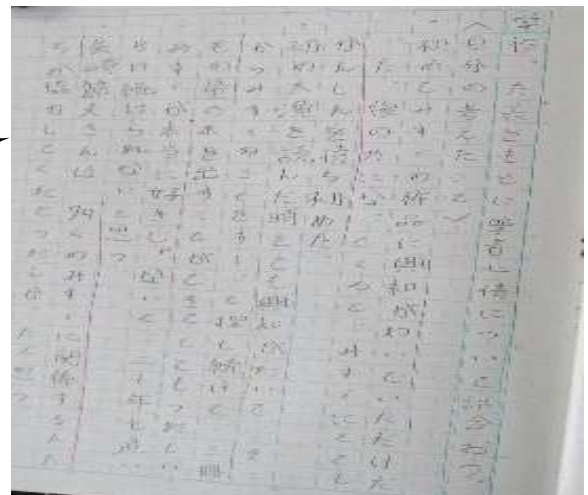
②学習モデルの「紹介シート」



②並行読書ができる環境

- 児童の様子：
- ・教材文「みすゞさがしの旅」を時系列にまとめることで、児童は筆者の行動や思いに寄り添いながら読み進めることができた。
 - ・学習のゴールとなる「紹介シート」のモデルの提示は、児童の意欲を引き出した
 - ・「紹介シート」の内容を見比べたり構成を考えたりすることで、児童にとって読書の視点が明確になった。

教材文についてまとめた児童のノート



児童が読み取った読書の視点を記入した「紹介シート」

【学びに向かう基本的な姿勢の確立】

○年3回の学力向上推進週間の実施…学校と家庭の役割を明確にし、連携した取組

事前 … 家庭への取組内容の周知

学校 … 学習のしみつつ+α（よい姿勢、下敷きの使用、学習問題やまとめ、自分の考え）

「学習がんばりカード」を使用し、毎日振り返りを行う。

家庭 … 生活のしみつつ（家庭学習は学年×10分、翌日の準備、就寝時間の管理）

「生活がんばりカード」を使用し、学校と家庭で情報を共有する。

事後 … 取組状況（各カードの集計、考察、児童の様子）を家庭へ周知

学習がんばりカード

生活がんばりカード

4 成果

○学習のゴールとなるモデルを提示することにより、児童は学習の流れとゴールをイメージすることができ、学習意欲も継続した。また、指導者が事前に学習のモデルを作成することは、児童のつまづきそうな場面や支援を明らかにした上での授業づくりにつながった。

○定期的な学力向上推進週間の実施により、学習用具の準備や家庭での学習時間の向上等、児童の情意面での変化がみられる。

○学習のまとめを自分で書く時間を確保することで、学習内容や思考の振り返りができる児童が増えている。次時の学習への目的をもつことにもつながり、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになっている。

5 今後の課題

▲学習することの意味や目指すもの等を意識し、主体的に学習に取り組むことや自他の考えを比較検討する場面の充実を目指した授業改善をしていく。

▲児童が自分の考えを形成して、文章や言葉等で表現する時間を確保する。

▲学校の学力向上に向けた取組を家庭へ発信することにより、児童の家庭学習の習慣化と、学校と家庭の役割を明確にした連携の更なる充実を図る。